

「地方自治」シリーズ登場！

「改革の旗手」といわれた多くの知事が引退し、新しい知事が誕生しました。地域の「自立と経営」が問われる中、自立を断行できる新しいリーダーは再び辺境から登場するのでしょうか。私たちは知事の役割を問い直す中で、「分権と自立」をめぐる生命力のある新しい議論を組み立てたいと考えました。

言論ブログ・ブックレット

私ならこう考える
有識者の主張

007

日本の知事に問う

有識者二〇〇人の診断—アンケート編



北川正恭
前三重県知事、
早稲田大学大学院公共経営研究科教授



増田寛也
前岩手県知事、
地方分権改革推進委員会委員長代理

言論NPO

言論不況からの訣別

言論ブログ・ブックレット

私ならこう考える
有識者の主張

008

知事の主張 2007

問われる自立と経営の意思—発言編

山田啓二 京都府知事
古川 康 佐賀県知事
麻生 渡 福岡県知事
太田房江 大阪府知事
齋藤 弘 山形県知事
泉田裕彦 新潟県知事
高橋はるみ 北海道知事
佐藤雄平 福島県知事









言論NPO

言論不況からの訣別

発言者：北川正恭、増田寛也
内容：いい意味でも悪い意味でも知事の役割が今ほど問われるべき時期はない。これまで分権改革を主導してきた少ない知事は不祥事でその座を追われ、これまでの分権改革自体が、国と地方のコップの中の争いと見なされ、その主役となるべき住民から浮き上がっている。分権を求めるのであれば、地域が自立するために経営の意思を持つ新しいリーダーが必要である。その覚悟を今の知事に問うだけでなく、この議論から地方の自立や分権をめぐる生命力のある新しい議論を組み立てたいと考えた。
A5判・88頁・定価840円(税込)

発言者：山田啓二、古川 康、麻生 渡、太田房江、齋藤 弘、泉田裕彦、高橋はるみ、佐藤雄平
内容：「日本の改革は辺境から始まる」といわれる。硬直した日本の政府ではなく、地方が日本の改革を動かす、という決意でもある。国と地方の「かたち」の再設計はまさに日本の改革そのものである。知事の多くにはそういう思いが今でもあるに違いない。ところが、私たちが先に行った有識者アンケートでは、知事の方権や地域の「リーダーと考える」人は、「そうは思わない」という人よりも少なかった。これは何を意味するのか。私は、地域に問われている課題の変化がその背後にあると考えている。自立を断行できる新しいリーダーは辺境から登場するのか。今号は「知事の主張」と題して8知事の発言を公開したい。
A5判・112頁・定価840円(税込)

言論NPOとは
言論NPOのメンバーには各分野で活躍する多くの挑戦者が参加しています。傍観者ではなく、当事者意識を持った質の高い議論を通じ、既存のメディアが十分に果たしていない「言論」の役割を、非営利組織で担おうと考えました。当団体は、現在日本で51団体しかない認定NPO法人です。(全体約3万団体)。私たちの活動のユーザー(顧客)は有権者そのものです。有権者が自ら政治を選択できるように国や政党の政策の評価や監視を行い、様々な課題解決のための対案を提案し、有権者に判断材料を提供します。

メディア掲載記事
知事に望む役割「経営者」が1位
言論NPOアンケート

2007年5月9日(水)朝日新聞朝刊
政治面に、「日本の知事に何が問われているのか」調査結果が掲載されました。

「知事に望む役割」に関する調査結果は、経営者(1位)が最も多く、政治家(2位)、行政官(3位)、学者(4位)、市民(5位)と続いた。また、知事に求められる役割として、「経営者としての役割」が最も多く挙げられた。これは、知事が地域のリーダーとして、地域の発展や課題解決のために、経営者のような決断力と責任感を持って行動してほしいという期待を示していると考えられる。